

富山県

南砺市埋蔵文化財分布調査報告8

- 井口地域 -

2012年度

2013年3月

南 砧 市 教 育 委 員 会

富山県

南砺市埋蔵文化財分布調査報告8

- 井口地域 -

2012年度

2013年3月

南 砧 市 教 育 委 員 会

序

南砺市には、国指定の高瀬遺跡や世界遺産にも登録されている相倉・菅沼の合掌造り集落などの貴重な文化財が数多く存在しています。また、遙か太古からの先人の営みも残されており、立野ヶ原台地における旧石器時代の遺跡群をはじめ、市内の各所には縄文時代から中近世までの遺跡が多数確認されています。

このような文化財は、現代に生きる我々が未来へと受け継ぐ財産です。地域で産まれ、育まれてきた文化財は保護・活用することで地域の発展に貢献すると考えております。市内に残された遺跡は市の歴史を語るうえで他に代えることのできない貴重な資料であり、大切な文化遺産です。

市教育委員会では遺跡の把握、保存に努めるために詳細分布調査を行っています。市内の遺跡地図を充実させることは、今後の遺跡の保存と整備、開発行為との調整において欠かせません。

この報告書が今後の学術研究や、郷土の歴史を知るための参考となり、文化財保護に対する理解の一助になりましたら幸いです。

最後に、調査の実施にあたり、多大なご協力とご理解をいただきました地元の方々、関係者の方々に深く感謝申し上げるとともに、今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年3月

南砺市教育委員会
教育長 浅川 茂

例　　言

1 本書は南砺市教育委員会が調査補助をうけて実施している、市内遺跡詳細分布調査（2012年度）の調査報告である。

2 調査は富山大学考古学研究室の指導と協力を得て、南砺市教育委員会が主体となり実施した。

3 今年度の調査は、南砺市井口地域（池尻・みやうち・川上中・いのくち・かわなか・大野）と平地域を対象とした。調査期間は次のとおりである。

平成24年4月14日(土) および 平成24年11月17日(土)

4 調査事務局は南砺市教育委員会文化・世界遺産課におき、世界遺産・文化財係長山田修弘、世界遺産・文化財係主任宮崎順一郎、片田亞紀が調査業務を担当し、文化・世界遺産課長浦辺一成が統括した。現地踏査、資料の整理、本書の執筆と編集は、以下の調査担当者、調査補助員が分担して行い、執筆の分担は文末に記した。

調査担当者	富山大学人文学部考古学研究室	教授 次山 淳
	同	准教授 高橋浩二
	南砺市教育委員会文化・世界遺産課世界遺産・文化財係	主任 宮崎順一郎
	同	主任 片田亞紀

調査補助員	関森 悠（富山大学人文学部考古学研究室研究生） 今井翔・大澤拓馬・工藤海・三宅克幸 (富山大学人文学部考古学研究室四回生) 金田朋子・小谷望有季・清水俊輝・寸田彩加・山下大希・山場愛弓 (富山大学人文学部考古学研究室三回生) 岡山充味・吉野友希・小林史佳・藤井奈良・吉田皓 (富山大学人文学部考古学研究室二回生) 河合陽子・西川和美（南砺市臨時雇用職員）
-------	--

5 現地調査では井口・平地域各地区の方々に多大なご協力、ご理解を得た。記して深く感謝したい。

6 採集遺物および記録図面は、南砺市教育委員会が保管している。

7 本書の挿図・写真図版の表示は次のとおりである。

- (1) 方位は真北である。
- (2) 挿図の遺物実測図の縮尺は原則として1/3である。
- (3) 写真図版の遺物番号は遺物実測図の番号と一致する。

本文目次

序 文	
例 言	
目 次	
I 位置と環境	1
II 調査の経過	2
第1表 調査区内の埋蔵文化財包蔵地	3
III 調査の概要	6
1 遺跡と採集遺物	6
2 遺物の散布状況	9
3 平成23(2011)年度・平成13・14(2001・2002)年度調査区との比較	10
IV まとめ	10
参考文献	11
第2表 調査結果一覧	12
図 版	
写真図版	

図版目次

第1図 南砺市位置図	
第2図 調査地区割図(1/200,000)	
第3図 調査地区概要図(1/25,000)	
第4図 調査結果概要図(1/10,000)	
第5図 純文・弥生～古墳の遺物散布状況(1/15,000)	
第6図 古代の遺物散布状況(1/15,000)	
第7図 中世の遺物散布状況(1/15,000)	
第8図 近世以降の遺物散布状況(1/15,000)	
第9図 遺物実測図(1)	
第10図 遺物実測図(2)	

写真図版目次

図版1 遺跡全景(1)	
図版2 遺跡全景(2)	
図版3 遺物写真(1)	
図版4 遺物写真(2)	

I 位置と環境

平成16年11月1日、砺波地方所在の八町村であった城端町、平村、上平村、利賀村、井波町、井口村、福野町、福光町が合併し南砺市が誕生した。南砺市は富山県の南西部端に位置し、北は砺波市、小矢部市に、東は富山市に、西は石川県金沢市、南は岐阜県飛騨市や白川村に隣接している。山間部は、白山国立公園に指定され、すぐれた自然景観を残しており、庄川や小矢部川の流れる平野部は水田地帯として、また、「散居村」として知られている。面積は668.86平方kmで東西約26km、南北約39kmに広がっている。

旧石器時代の遺跡は、福光・城端両地域の境に位置する立野ヶ原を中心に広がっており、点在する144か所の遺跡は立野ヶ原遺跡群と呼ばれている。めのうや鉄石英が豊富で、それらを利用した石器製作場所がいくつか確認されており、富山県内で最も古い遺跡群の1つとして知られている。

縄文時代に入ると、生活の場は平野部にも広がる。草創期から前期にかけて確認している遺跡数は少ないものの、中期には西原A遺跡や徳成遺跡、後・晩期には後期の指標遺跡である井口遺跡をはじめ安居五百歩遺跡、五瀬遺跡がある。

弥生・古墳時代の遺跡は、確認されている数が少ないが、近年のは場整備事業等により神成遺跡では、弥生終末期から古墳時代にかけての竪穴住居や周溝遺構を確認しており、また梅原安丸Ⅲ遺跡では、古墳時代中期の竪穴住居を確認している。

古代の遺跡には、7世紀・9世紀の竪穴住居跡を約10棟確認した在房遺跡や、9世紀前半の梅原落戸遺跡がある。その他、中世の指標となる大集落として知られる梅原胡摩堂遺跡の東側で、8世紀から10世紀にかけての竪穴住居等の遺構を確認している。またこれら古代の集落に日常食器を供給していたであろう麻に安居・岩木窯跡群がある。

中世には、平野部に大規模な集落が広がる。梅原胡摩堂遺跡をはじめ久戸遺跡から田尻遺跡に至る中世集落跡は南北2km、東西1kmにわたり、掘立柱建物、竪穴状土坑、井戸、区画溝などの遺構や、中世土師器、珠洲、青磁、白磁、瀬戸などの遺物が多く確認されている。

今年度の対象地域は、井口地域（池尻・宮後・上広安・井口・川上中・大野）である。井口地域のうち蛇喰・久保・池田地区においては近年は場整備事業に先立って大規模な分布調査・試掘調査等が実施されており、詳細な分布状況が明らかにされているので今回の調査対象地から除外した。また平地域は未調査部分も多いため、来年度報告する予定である。

井口地域は赤祖父山を中心とした山々を背に、小矢部川とその支流により作り出された扇状地に位置する。この扇状地にはいくつかの河岸段丘が形成され、縄文時代から中世までの遺跡が段丘上に多く立地する。

周知の埋蔵文化財は縄文時代・古代・中世・近世の遺跡が存在する。縄文時代の遺跡は池尻遺跡、久保・池田No.2遺跡、井口城跡、井口遺跡、井口南遺跡がある。なかでも井口遺跡は「井口式土器」と呼ばれる北陸



第1図 南砺市位置図

の縄文時代後期後半の基準資料となっており、充実した資料がうかがえる。昭和53、54年には本格的な発掘調査が行われ、住居跡を約50棟確認している。古代の遺跡には宮後北遺跡、池尻遺跡、久保・池田No.2遺跡、宮後キンケン塚、井口城跡、井口遺跡、井口A遺跡、川上中遺跡がある。は場整備の際に試掘調査が行われた遺跡もあるが、ほとんどが散布地である。中世の遺跡は宮後北遺跡、池尻遺跡、久保・池田No.2遺跡、宮後キンケン塚、井口城跡、井口遺跡、井口南遺跡、井口A遺跡、川上中遺跡、川上中土居の宮遺跡、寺山中世墓群がある。井口城跡は『三州志』によれば元弘年間(1331～1334)に、井口三郎光義の後裔にあたる井口藏人が城主として居城していたとされている。また、『太平記』によれば、井口氏は慶安2年(1362)に、南朝方の桃井直常方に味方し、幕府を攻める際に井口城が、桃井方の砺波郡における軍事拠点となっていた。これまでの発掘調査により、主郭の規模は東西約50間、南北約30間で、主郭の東側に馬出し状の小郭があることがわかり、遺物から城の遺構は2時期に分かれていると考えられている。現在は、主郭の一部が墓地として残っている。

(宮崎順一郎)

II 調査の経過

平成16年11月の町村合併までに各々の旧町村で確認していた埋蔵文化財包蔵地(以下、「包蔵地」)の数は、590ヶ所あまりである。これらの包蔵地の多くは、古い伝承に基づくもの、開発行為にかかる事前調査によって発見されたものである。町村合併時において、詳細な分布調査が行われていたのは、旧福野町全域、旧城端町域の平野部、旧福光町・旧井口村域において県営は場整備事業等の大規模な開発行為が行われた地域のみであった。市内には、未だ包蔵地の詳細が全く確認されていない未調査地区が多く、包蔵地の保護と開発行為との円滑な調整を計っていくためにも、詳細な分布調査を実施することとなった。

分布調査の実施については、旧城端町で平成13年度より7ヶ年にわたって町全域を調査する予定にしていたが、町村合併にあたり計画変更を行い、平成18、19年度に調査予定であった旧城端町域の山間部を先送りし、未だ未調査地区が多い南砺市の平野部について先行し調査を行うこととした。

南砺市平野部における未調査地区は、福光地域(調査実施済みである北山田地区、高宮・小林・殿の一部、岩木、樅谷、竹内を除く)、井口地域の一部、井波地域、平地域、上平地域である。このうち、福光地域を4分割、井波地域を2分割、井口地域、平地域、上平地域を合わせて2分割し、未調査地区を8分割し8ヶ年で南砺市平野部の調査を実施することとした(第2図参照)。調査の成果は年度毎にまとめ公表する予定である。

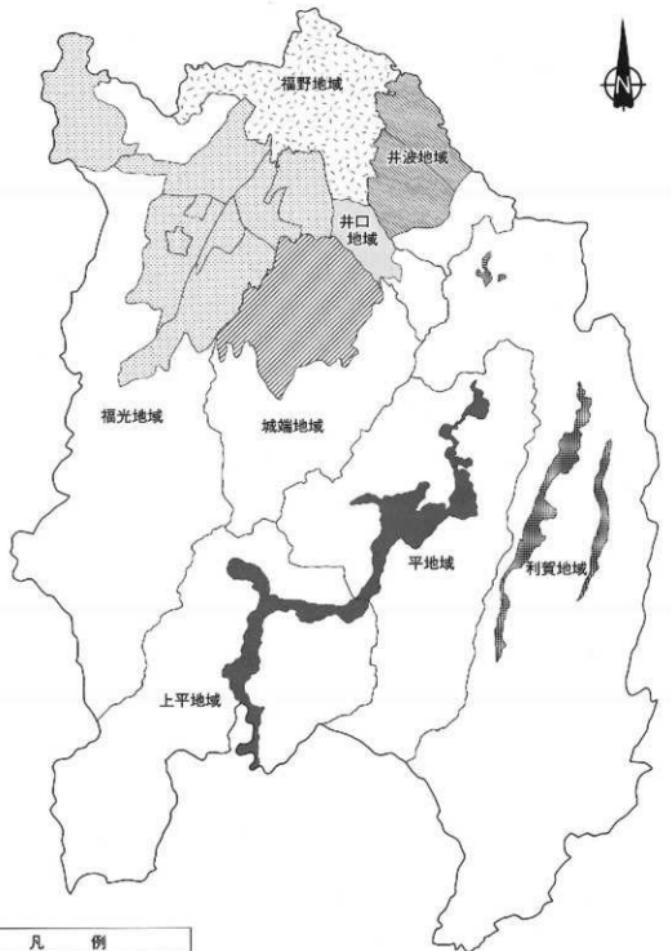
調査は、南砺市が国庫補助を受け、富山大学考古学研究室の指導・協力を得て進めることとした。現地踏査は春期は井口地域、秋期は平地域で行った。踏査の際は、1/2,500もしくは1/5,000の地形図を持参し、田畠一枚をくまなく踏査し、土器、石器等の遺物を探集して、採集地点を図面に記録した。採集した遺物は、洗浄後採集地点を注記し、実測作業をおこなった。その後、遺物の散布状況、地形、伝承等も加味しつつ、包蔵地の範囲を決定した。

今年度の調査対象地において、調査実施までに確認している周知の包蔵地及び調査履歴については、第1表のとおりである。

(宮崎順一郎)

第1表 調査区内の埋蔵文化財包蔵地

遺跡名	ふりがな	所在地	主な時代	種別	調査履歴	備考	番号
宮後北遺跡	みやうしろきたいせき	宮後	古代・中世	古代散布地、中世散布地	H24範囲拡大		1
池尻遺跡	いけじりいせき	池尻	縄文・古代、中世・近世	縄文散布地、平安聚落、中世聚落、近世聚落	II 2 試掘(村営住宅用地) H 8 試掘(個人住宅) H 9 試掘(県道改良) H 8 本調査(県道改良) II 9 試掘(演路) H12 試掘(店舗) H13 試掘(店舗)	村の指定文化財池尻中世石塔群出土地の隣接地を調査したところ、旧河道に投げ込まれた状態で、石塔群の広がりが認められた。また、河底に面する高台には、江戸時代前期の漁権が発見された。	2
久保・池田 No.2 遺跡	くわい・いけだなんば いのやま	久保	縄文・古代、中世	縄文散布地、古代散布地、中世散布地	II 1 試掘(は場整備)		3
宮後キンケン塚	みやうしろきんけんづか	宮後	古代・中世	古代散布地、中世社寺	II 9 試掘(住宅)		5
井口城跡	いのくちじょうあと	池尻字勘定局	縄文・古代、中世・近世	縄文散布地、古代散布地、中世城跡、近世散布地	S 63 試掘(は場整備) S 63 試掘(農道) H 1 本調査(は場整備) H 3 試掘(農道)	周辺は、昭和37年頃には場整備事業が施工されているが、遺構の残り方はかなり魚町・戰国時代の信仰資料として梵字を墨書きした硯舟が甚戸や堀から出土した。主郭の南北の幅は約38mであり、北郭は幅約15m、南郭は幅約25mであることがわかった。	6
井口遺跡	いのくちいせき	井口	縄文・古代	縄文後聚落、縄文聚落、平安敷地、中世散布地	S 53 試掘(は場整備) S 54 試掘(は場整備)		7
井口南遺跡	いのくちみなみいせき	井口	縄文後・中世	隨人屋敷地、中世散布地	S 58 試掘(は場整備) S 53 試掘(農道整備)		8
井口 A 遺跡	いのくちえいせき	井口、蛇喰	古代・鎌倉・空町・近世	古代散石地、中世聚落、近世散布地	S 59 試掘(は場整備) H 7 试掘(駐車場) II 8 試掘(個人住宅) II 9 試掘(丁場拡張) H 11 試掘(は場整備) H 13 本調査(は場整備)		9
川上中上居の宮遺跡	かわかみなかといのみいせき	川上中	中世	中世社寺	II 13 試掘(倉庫建設)		10
川七中遺跡	かわかみなかいせき	川上中	平安・中世・近世	古代散布地、中世散布地、近世散布地	II 10 試掘(仮設道路)		11
寺山中世墳墓群	てらやまちゅうせいふんばぐん	寺山	鎌倉	中世墓			12



凡　例	
調査完了地域	調査期間
福野地域	H7～H9
城端地域	H13～H17
利賀地域	H15
福光地域	H18～H22
井波地域	H22～H23
調査未完了地域	
平成24年度調査実施地域	
平成25年度調査予定地域	

第2図 調査地区割図 (S=1/200,000)



第3図 調査地区概要図 (S=1/25,000)

III 調査の概要

1 遺跡と採集遺物

(1) 宮後北遺跡（第9図・図版3）

採集した遺物は、須恵器8点、土師器31点、珠洲焼9点、青磁1点、磁器3点、寛永通宝1点の53点である。このうち、須恵器6点、土師器2点、珠洲焼6点、寛永通宝1点を図示した。

- 1 須恵器壺の底部片。底部は平底で回転によるケズリをおこなう。胎土は密である。色調は灰色を呈す。焼成は良好。
- 2 須恵器壺の体部片。外面にカキ目を施し、内面に同心円状の当て具痕を残す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。
- 3 須恵器壺の体部片。外面に平行タタキ目を残し、内面に板ナデを施す。胎土は密である。色調は外面がにぶい黄橙色、内面が灰黄色、断面が黄灰色を呈する。焼成は良好。
- 4 須恵器壺の体部片。外面には平行タタキ目の後にハケメ、内面に同心円状の当て具痕を残す。胎土は密で径1mm以下の砂粒を含む。色調は灰色を呈す。焼成は良好。
- 5 須恵器壺の体部片。内外面にロクロナデ調整を施す。胎土は密。色調は灰色を呈する。焼成は良好。
- 6 須恵器壺の体部片。外面に平行タタキ目、内面に同心円状の当て具痕をのこす。胎土は密で径1mm以下の砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好。
- 7 中世土師器皿の口縁部から底部にかけての破片。口径は約9cmをはかる。内外面にナデ調整を施す。胎土は密で径1mm以下の砂粒を含む。色調は明褐灰色を呈する。焼成は良好。
- 8 中世土師器皿の口縁部片。外面は口縁部にヨコナデ、体部は無調整、内面にヨコナデ調整を施す。胎土は密で径1mm以下の砂粒を含む。色調はにぶい黄橙色を呈する。焼成は良好。
- 9 珠洲焼の壺あるいは壺の体部片。外面に平行タタキ目を施す。胎土は密で径2mm以下の砂粒を含む。色調は灰白色を呈する。焼成は良好。
- 10 珠洲焼の壺あるいは壺の体部片。外面に平行タタキ目、内面に押圧具痕を残す。胎土は密。色調は灰色を呈する。焼成は良好。
- 11 珠洲焼壺の体部片。外面に平行タタキ目、内面に押圧具痕を残す。胎土は密。色調は灰色を呈す。焼成は良好。
- 12 珠洲焼壺の体部片。外面に平行タタキ目が見られる。外面に自然釉。色調は外面が暗灰色、内面が灰色を呈する。胎土は密で径4mmの砂粒を含む。焼成は良好。
- 13 珠洲焼壺の体部片。外面に平行タタキ目、内面に円形の押圧具痕を残す。胎土は密で径1mm以下の砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成良好。
- 14 珠洲焼拂り鉢の体部片。外面にヨコナデ、内面に卸目をつける。胎土は密で径1mm程の砂粒を含む。色調は外面がにぶい黄褐色、内面が灰色、断面が灰黄褐色を呈する。焼成は良好。
- 15 寛永通宝。「寛」字の12画と13画の頂部は不明であるが、「寶」字の最終画を「ハ」字状につくる（ハ貝寶）ため、新寛永に分類される。「通」字の1・2画を「コ」字状につくる（コ頃通）。背面は無文。外縁外径21.6mm、内郭内径6.5mm。

(2) 久保・池田No.2遺跡 (第9図・図版3)

採取した遺物は、上師器1点、珠洲焼1点である。

16 中世上師器皿の底部片。底部は平底。胎土は精良。色調は外面がにぶい橙色、内面が橙色を呈す。焼成は良好。

17 珠洲焼揺り鉢の口縁部片。内外面ヨコナデ調整。胎土は密。色調は外面が暗灰黄、内面は灰色を呈する。焼成は良好。

(3) 宮後南遺跡 (第9・10図・図版3・4)

採取した遺物は、須恵器2点、土師器3点、珠洲焼7点、青磁1点、越中瀬戸焼1点の14点である。このうち、須恵器2点、上師器1点、珠洲焼6点、越中瀬戸焼1点を図示した。

18 須恵器壺の体部片。内面に同心円状の当て具痕を残すが、内外面ともに磨滅が著しいため外面の調整は不明。外面に焼けた跡がみられる。胎土は密。色調は外面が黄灰色、内面がにぶい黄色を呈する。焼成は良好。

19 須恵器壺の体部片。外面には平行タタキ目、内面に同心円状の当て具痕を残す。胎土は密。色調は外面がオリーブ黒色、内面が灰色を呈する。焼成は良好。

20 上師器皿の口縁部片。口唇部は薄く抜ける。復元口径は10cm。胎土は精良。色調は橙色を呈する。焼成は良好。

21 珠洲焼の壺あるいは壺の体部片。外面に平行タタキ目を施す。胎土は密で径1mm以下の砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

22 珠洲焼の壺あるいは壺の体部片。外面に平行タタキ目、内面に押圧具痕を残す。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

23 珠洲焼の壺あるいは壺の体部片。外面に平行タタキ目、内面に弱い押圧具痕を残す。胎土はやや粗放。色調は灰色を呈す。焼成は良好。

24 珠洲焼の壺あるいは壺の体部片。外面に平行タタキ目、内面に押圧具痕を残す。胎土は密で径1mm程の砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

25 珠洲焼の壺あるいは壺の体部片。外面に平行タタキ目、内面にナデツケを施す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

26 珠洲焼壺の口縁部片。外面に平行タタキ目が見られ、内面ナデツケ。口縁部上端に灰白色の自然釉が付着する。胎土は密で径1mmの砂粒を含む。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

27 越中瀬戸焼皿の底部片。削出し高台で断面が逆三角形になる。外面には暗赤褐色の鉄釉が部分的に残る。胎土は密。色調はにぶい黄橙色。焼成は軟質で43と同じ。

(4) 宮後キンケン塚 (第10図・図版4)

採取した遺物は、青磁1点、陶器1点である。このうち、青磁1点を図示した。

28 青磁碗の口縁部片。口径は約15cmをはかる。内外面に線灰色の釉を施す。内面口縁下に一条の釉下沈線がめぐる。胎土は密。断面の色調は灰色を呈する。焼成は良好。

(5) 井口城跡（第10図・図版4）

採集した遺物は、須恵器1点、珠洲焼1点である。

29 須恵器杯の口縁部片。外面にヨコナデを施す。胎土は密。色調は外面上部と内面が灰色、外面上部が灰白色を呈する。焼成は良好。

30 珠洲焼壺の体部片。外面に平行タタキ目、内面にナデツケを施す。胎土は密である。色調は外面に灰色、内面にぶい褐色を呈する。焼成は良好。

(6) 井口遺跡（第10図・図版4）

採集した遺物は、縄文土器1点、土師器1点である。このうち、縄文土器1点を図示した。

31 縄文土器深鉢の体部片。外面に多条LR縄文が見られる。胎土は粗く砂礫を含む。色調は外面が黒褐色、内面が茶褐色を呈する。焼成は良好。

(7) その他の遺跡

今回の調査地域には、上記の6遺跡の他に、池尻遺跡（第4図2）、井口南遺跡（8）、井口A遺跡（9）、川上中土所の宮遺跡（10）、川上中遺跡（11）、寺山中世墳墓群（12）が所在する。図示できなかったが、泡尻遺跡では磁器1点、井口南遺跡では青磁1点、陶器2点、川上中遺跡では土師器1点、磁器1点が採集されている。他の遺跡では遺物は採集されていない。

(8) その他の採集遺物（第10図・図版4）

遺跡範囲外の採集品についても将来的な遺跡発見の可能性を高めるために、すべての採集地点を記録している。これらのうち、須恵器2点、土師器4点、珠洲焼4点、越中瀬戸焼3点を図示した。

32 須恵器杯の底部片。復元底径は約8cmをはかる。高台は貼り付けで、内外面に回転ナデ調整を施す。胎土は精良である。色調は灰白色を呈する。焼成は良好。

33 須恵器壺の体部片。外面に平行タタキ目、内面に同心円状の当て具痕を残す。胎土は密。色調は外面は暗青灰色、内面は青灰色を呈する。焼成は良好。

34 土師器壺の体部片。外面にケズリを施し、内面に当て具痕を残す。胎土は密で径1mm程の砂粒を含む。色調は外面がぶい黄橙色、内面上部が灰黄褐色、内面下部がぶい黄橙色を呈する。焼成は良好。

35 土師器皿の口縁部片。復元口径は6.6cm。両面にナデ調整が見られる。胎土は精良。色調は鈍い褐色を呈する。焼成は良好。

36 土師器皿の口縁部片。胎土は密。色調はぶい黄橙色。焼成は良好。

37 土師器皿の底部片。底部は平底で底径は約5cmをはかる。胎土は精良である。色調は橙色を呈する。焼成は良好。

38 珠洲焼の壺あるいは壺の体部片。外面に平行タタキ目を残す。胎土は密。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

39 珠洲焼の壺あるいは壺の体部片。外面に平行タタキ目、内面に押圧具痕を残す。胎土は密である。色調は灰色を呈する。焼成は良好。

40 珠洲焼壺の体部片。外面に平行タタキ目、内面に押圧痕を残す。胎土は密で径1mm程の砂粒を含む。色調は外面が灰色、内面がオリーブ灰色を呈する。焼成は良好。

- 41 珠洲焼甕の体部片。外面に平行タタキ目、内面に押圧痕を残す。胎土は密で径1mm以下の砂粒を含む。色調は外面が灰色、内面がにぶい黄橙色を呈する。焼成は良好。
- 42～43は越中瀬戸焼皿である。焼成が硬質なもの（42・44）と、軟質なもの（43）がある。
- 42 越中瀬戸焼皿の口縁部片。復元口径は約10cmをはかる。外面にロクロナデをおこない、内面には釉止めの段をつくる。内面と外面の一部に灰白色の灰釉を施す。胎土は密である。素地は表面が赤褐色、断面が灰褐色を呈する。焼成は良好。
- 43 越中瀬戸焼皿の底部片。削出し高台で断面が逆三角形になる。内面に暗赤褐色の鉄釉が部分的に残る。胎土は密。色調はにぶい黄橙色を呈す。焼成は軟質。
- 44 越中瀬戸焼皿の底部片。削出し高台で断面が逆三角形になる。内面には釉止めの段をつくる。内外面に灰釉を施す。胎土は密である。素地は表面が赤褐色、断面が灰褐色を呈する。焼成は良好。

（岡田充味、菅野友希、小林史佳、藤井奎臣、吉田皓、次山淳）

2 遺物の散布状況

今年度の調査で採集した遺物の総数は、117点である。これらの分布状況を時期別に大別、集計した。第5～8図では1辺125mの方眼を設け、方眼1つを1ブロックとして、ブロック単位で採集遺物の点数を示している。各時期の総点数は、縄文・弥生・古墳時代1点（弥生・古墳は0点）、古代28点、中世57点、近世以降20点、近現代および時期不明11点である。

（1）縄文・弥生・古墳時代の遺物散布状況（第5図）

縄文・弥生・古墳時代の遺物は、縄文土器1点を1ブロックから採集した。採集地点は、周知の井口遺跡の範囲内であり、1978・79年に発掘調査が行われた遺跡西北の筆にあたる。弥生・古墳時代の状況については、十分な情報が得られなかった。

（2）古代の遺物散布状況（第6図）

古代の遺物は、須恵器14点、土師器14点の28点を14ブロックから採集した。宮後北遺跡、宮後南遺跡、井口遺跡、井口城跡の各範囲から出土している。特に、宮後北遺跡の北端、赤祖父川左岸に8点採集されたブロックがあり、周囲のブロックと合わせこの地区に集中する傾向がみえる。

（3）中世の遺物散布状況（第7図）

中世の遺物は、土師器32点、珠洲焼21点、青磁4点の57点を24ブロックから採集した。宮後北遺跡、久保・池田No.2遺跡、宮後南遺跡、宮後キンケン塚、井口城跡、川上中寺山遺跡の各範囲から出土している。中世の遺物にしても、古代の遺物が最も多く採集された宮後北遺跡の北端、赤祖父川左岸の同じブロックから19点が採集されている。周知の遺跡の範囲外では、井口地域の宮後南遺跡の南方、および井口A遺跡の南方に散布が認められる。中世の資料は、点数の増加とともに出土ブロック数の増加も認められるため、特に集中する箇所が形成されたのではなく分布範囲が広がったことを示している。

（4）近世以降の遺物分散状況（第8図）

近世以降の遺物は、陶器14点、（越中瀬戸焼4点を含む）、磁器5点、寛永通宝1点の20点を18ブロックから採集した。宮後北遺跡、池尻遺跡、宮後南遺跡、宮後キンケン塚、井口A遺跡、川上中寺山遺跡の各範囲から

出土している。分布の傾向は、中世のありかたに類似する。

(次山 淳)

3 平成23(2011)年度・平成13・14(2001・2002)年度調査範囲との比較

平成23年度調査範囲(井波地域)と平成13・14年度調査範囲(城端地域糞谷地区・北野地区)に挟まれた平成24年度調査範囲(4頁第2図参照)は、東から南を八乙女山や赤祖父山などに囲まれた砺波平野の南北側に位置する。小矢部川(支流を含む)と庄川によってつくり出された扇状地にあって、小矢部川の支流である山田川や赤祖父川、西大谷川などの流域の平地に上に立地する。このように地形的にも水系的にも共通する地区における各段階の遺物散布状況を比べることは、ひとつの地域における長期間の土地利用の変遷を知る上で重要な要素である。以下、各年度の遺物採集数と比較する形で見ていきたい。

縄文時代の遺物は、今年度は井口遺跡から土器1片が採集されただけである。平成23年度は寄贈品の磨製石斧1点、平成13・14年度も土器4片、石器1点で、点数はやはり少ない。だが、「井口式土器(縄文時代後期後半)」の指標遺跡として知られる井口遺跡からは30棟を越える堅穴住居跡が発掘されているほか、周辺には今年度範囲だけでも池尻遺跡などの縄文散布地が1箇所確認されている(3頁第1表参照)。

弥生・古墳時代の遺物は、今年度と平成13・14年度は無し、平成23年度は高瀬遺跡から弥生土器ないし土師器が6片採集されただけである。この段階の集落は少数例だが、山田川を挟んで北西側(福光地域)の神成遺跡(古墳出現期)や梅原安丸三遺跡(古墳時代中期)で確認されている。

一方、古代にはいると、採集遺物の数が急増する。今年度は山田川と赤祖父川の合流点にある宮後北遺跡から須恵器8片、土師器10片が採集された。この他、周辺からも少数採集されている。平成23年度は国史跡の高瀬遺跡から須恵器206片、土師器39片が集中して採集されたほか、八乙女山麓にかけて少数だが須恵器の分布が見られる。また、山田川の上流側にあたる平成14年度範囲でも土器片の数が急激に増加している。

中世の遺物は、やはり宮後北遺跡(珠洲9片、青磁1片)に比較的多く見られる。平成23年度範囲では高瀬遺跡に集中する。この他、少数だが山麓部にも遺物の散布が見られ、この段階に進出した中世社寺や中世墓との関係が注目される。また、これ以前にはほとんど遺物が見られなかった砺波平野南端部の平成13年度範囲でも、この段階から採集遺物の数が急激に増加している。

近世の遺物は、宮後北遺跡、高瀬遺跡とともに減少傾向にある。また、今年度・平成23年度範囲ともに山麓部における散布は依然としてまばらである。一方、平成13・14年度範囲からは引き続き多数の遺物が採集されており、砺波平野奥部における土地の利用がさらに広い範囲にすすめられていったことがうかがわれる。

(高橋浩二)

IV まとめ

平成24年度の調査は、旧井口村西部の井口地域(池尻・宮後・上広安・井口・川上中・大野)および平地域を対象として実施した。本書では、このうち井口地域の成果をとりまとめている。今回の調査範囲には、第1表および第4図に示したように、宮後北遺跡、池尻遺跡、久保・池田No.2遺跡、宮後キンケン塚、井口城跡、井口遺跡、井口南遺跡、井口A遺跡、川上中土居の宮遺跡、川上中遺跡、寺山中世墳墓群といった遺跡の存在が知られていたが、これらの遺跡の多くはほ場整備事業などにともなう発掘調査が実施されており、その内容は各発掘調査報告書および『井口村史』(下巻史料編)に詳しい。

また、昨年度調査の井波地域と今年度の調査範囲の中間にあたる旧井口村東部地域については、ほ場整備事

業にともなう調査に加え、平成7年以降「県営扱い手育成基盤整備（区画整理型）事業」に関連した詳細な分布調査、および発掘調査が実施されており、蛇喰A遺跡、蛇喰正覚寺遺跡など各遺跡の内容と地域のありかたが明らかになっている。

今回の詳細分布調査では117点の遺物が採集され、この地域における既知のありかたをおおむね追認するものとなったが、周知の遺跡範囲に加え、山田川との合流箇所から約350m遡った赤祖父川左岸の地点、および宮後キンケン塚の周辺等でやや濃密な遺物の散布が確認された。この成果を受けて、これまでに周知されていた宮後北遺跡の遺跡範囲をさらに北方および東方へ広げるとともに、新たに宮後南遺跡を遺物散布地として認知した（第2表）。宮後北遺跡は、南北約725m、東西約225mの範囲とし、宮後南遺跡は東西約450m、南北約400mの範囲で、古代から中・近世にかけての遺物の散布が確認されている。今回の調査で採集した遺物は、宮後北遺跡で最も多く、宮後南遺跡がこれに次ぐ。

遺物の分布を時期別にみると、縄文時代については、井口遺跡において土器を1点採集したが、前述のように遺跡範囲の広がりを知る材料にはなり得ていない。また、弥生・古墳時代の状況については、情報が得られていない。一定量の資料の得られた古代以降の分布傾向をみると、古代と中世以降の間に変化を読み取ることができる。古代以前の分布が宮後南遺跡以北を中心とするのに対し、中世以降にはそれ以南へと分布範囲が広がっており、川筋に近接した山田川右岸の段丘面から赤祖父山麓に向かって遺跡の立地が拡大していく様子がうかがえる。このようなありかたは、調査地域の南西に隣接する城端地域2002年度調査地区、および東に接する井口地域蛇喰地区的調査においても同様の傾向が認められる。

今回の調査地域には、Ⅲ-1で採集遺物を報告した6遺跡の他に、池尻遺跡、井口南遺跡、井口A遺跡、川上中土居の宮遺跡、川上中遺跡、守山中世墳墓群が所在する。池尻遺跡では磁器1点、井口南遺跡では青磁1点、陶器2点、川上中遺跡では土師器1点、磁器1点が採集されているが、他の遺跡では遺物は採集されていない。周知された遺跡・散布地であってもその内容が明らかでないものも少なくなく、今後さらに遺跡のありかたの把握に努めることが必要である。

（次山 淳）

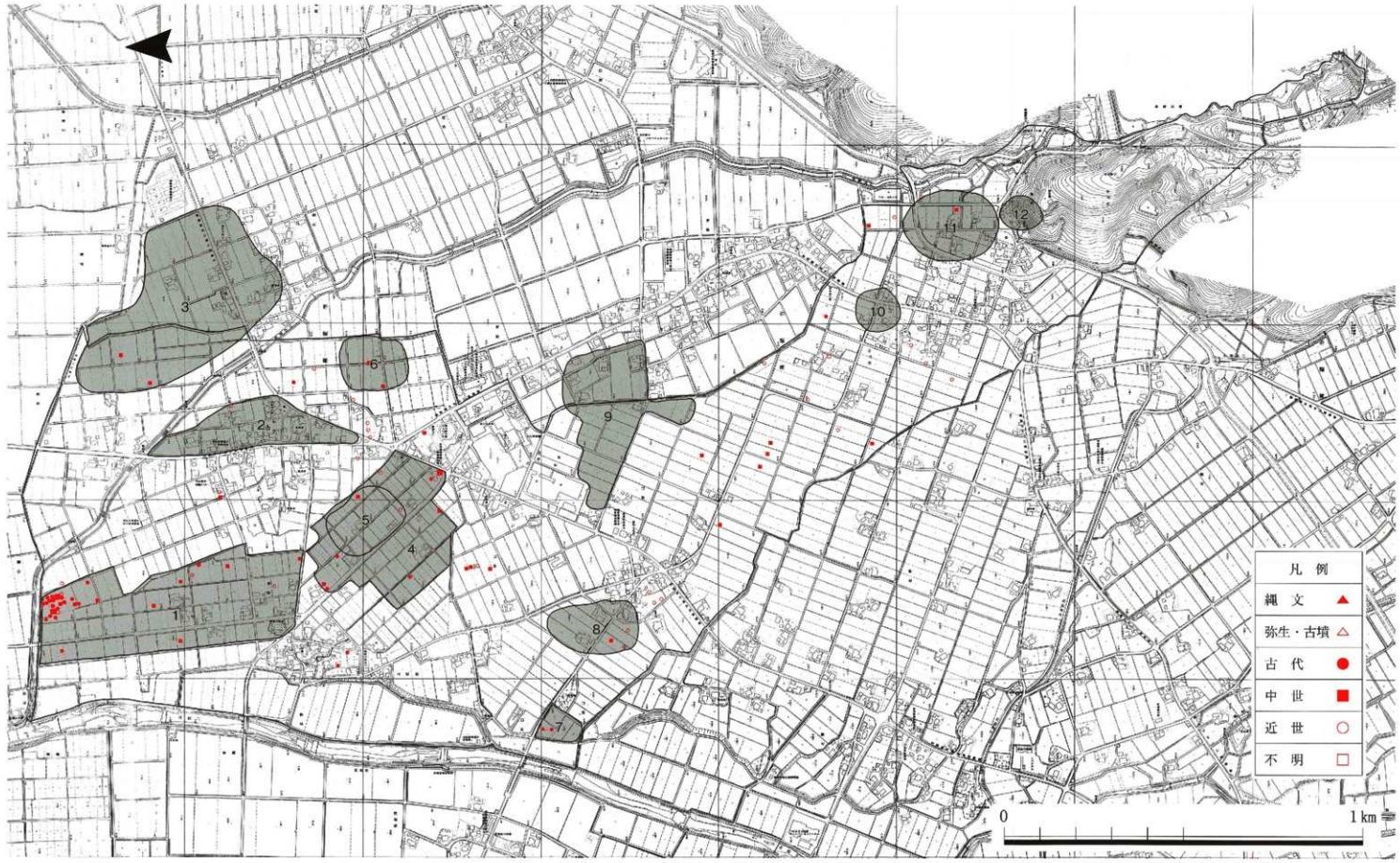
参考文献

- 井口村教育委員会『富山県井口村井口遺跡発掘調査概要』1980
井口村教育委員会『井口城跡発掘調査概要』1990
井口村史編纂委員会『井口村史』上巻 通史編 井口村 1995
井口村史編纂委員会『井口村史』下巻 史料編 井口村 1992
勧富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所『梅原胡麻堂遺跡発掘調査報告（遺物編）－東海北陸自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告II－』富山県文化振興財團埋蔵文化財発掘調査報告第7集 1996
城端町教育委員会『城端町埋蔵文化財分布調査報告II 2002年度』2003
田辺昭二『須恵器大成』角川書店 1981
富山県埋蔵文化財センター編『蛇喰A遺跡』県営扱い手育成基盤整備（区画整理型）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 井口村教育委員会 1998
富山県埋蔵文化財センター編『蛇喰正覚寺遺跡』県営扱い手育成基盤整備（区画整理型）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 井口村教育委員会 1999
富山県埋蔵文化財センター編『富山県井口村蛇喰地区に係る埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告書 蛇喰A遺跡・

- 蛇喰B遺跡・蛇喰C遺跡・蛇喰正覚寺遺跡・蛇喰タケダン遺跡・蛇喰音休寺谷遺跡・井口A遺跡』県営担い手育成基盤整備（区画整理型）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第3集 井口村教育委員会 2000
- 富山県埋蔵文化財センター編『蛇喰A遺跡2』井口村道27号拡幅事業・は場整備関連事業に伴う発掘調査報告 井口村教育委員会 2000
- 富山県埋蔵文化財センター編『蛇喰正覚寺遺跡2』県営担い手育成基盤整備事業（区画整理型）蛇喰地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 井口村教育委員会 2001
- 富山県埋蔵文化財センター編『富山県井口村井口A遺跡発掘調査報告』井口村教育委員会 2002
- 富山県埋蔵文化財センター・『縄文時代後期のムラ 井口遺跡』2010
- 富山大学人文学部考古学研究室『越中上末窯』富山大学考古学研究報告第3冊 1989
- 南砺市教育委員会「南砺市埋蔵文化財分布調査報告1 - 城端地域5 -」南砺市埋蔵文化財調査報告書9 2006
- 南砺市教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室『南砺市埋蔵文化財分布調査報告2 - 福光地域1 - 2006年度』南砺市埋蔵文化財調査報告書17 2007
- 南砺市教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室『南砺市埋蔵文化財分布調査報告3 - 福光地域2 - 2007年度』南砺市埋蔵文化財調査報告書22 2008
- 南砺市教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室『南砺市埋蔵文化財分布調査報告4 - 福光地域3 - 2008年度』南砺市埋蔵文化財調査報告書24 2009
- 南砺市教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室『南砺市埋蔵文化財分布調査報告5 - 福光地域4 - 2009年度』南砺市埋蔵文化財調査報告書28 2010
- 南砺市教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室『南砺市埋蔵文化財分布調査報告6 - 福光地域5 - 井波地域1 - 2010年度』南砺市埋蔵文化財調査報告書29 2011
- 南砺市教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室『南砺市埋蔵文化財分布調査報告7 - 井波地域2 - 2011年度』南砺市埋蔵文化財調査報告書31 2012
- 北陸中世考古学研究会『中世北陸のカワラケと輸入陶磁器・瀬戸美濃製品』第19回北陸中世考古学研究会資料集2006
- 北陸中世土器研究会『中世前期の遺跡と土器・陶磁器・漆器』第5回北陸中世土器研究会 1992
- 北陸中世土器研究会編『中・近世の北陸 考古学が語る社会史』杜書房 1997
- 吉岡康暢『中世須恵器の研究』吉川弘文館 1994

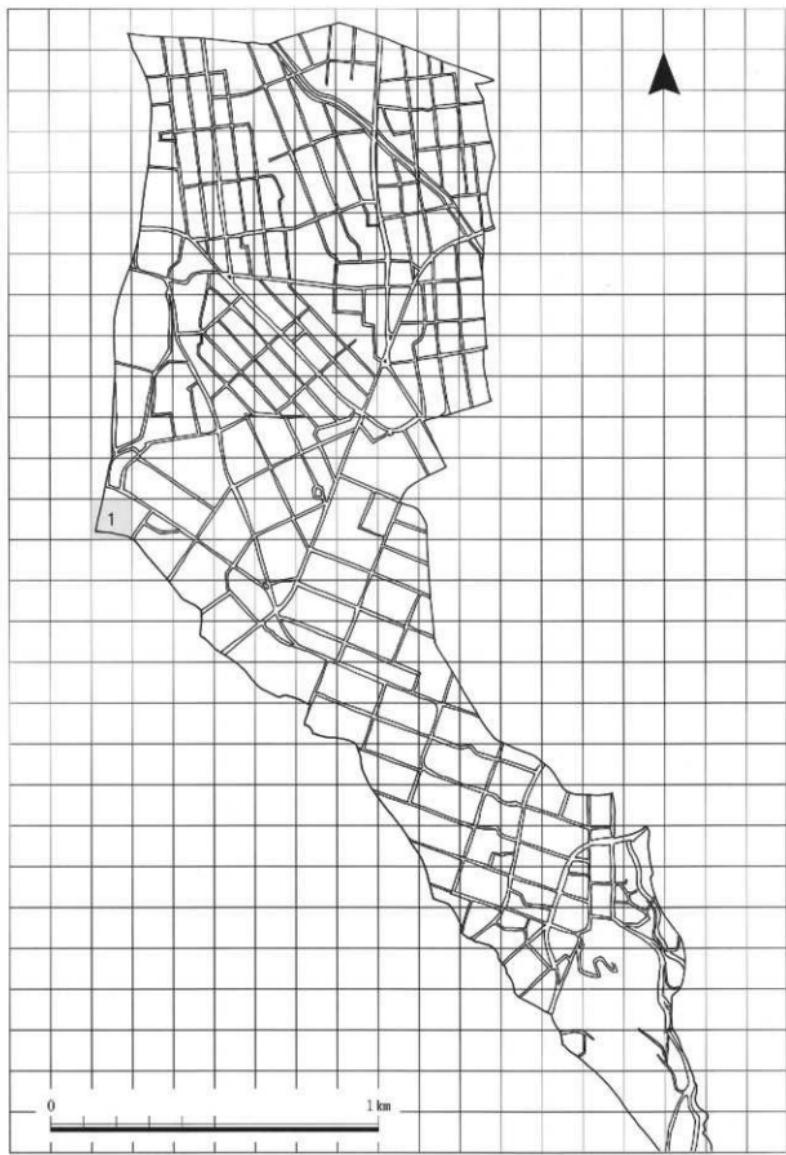
第2表 調査結果一覧（新規、内容変更の遺跡のみ記載）

遺跡名	ぶりがな	所 在 地	主な時代	種 別	備 考	第4回No
宮後北遺跡	みやうしろきたいせき	宮後	古代、中世	古代散布地、中世散布地	H24範囲拡大	1
宮後南遺跡	みやうしろみなみいせき	宮後	古代、中世	古代散布地、中世散布地	H24新規	4

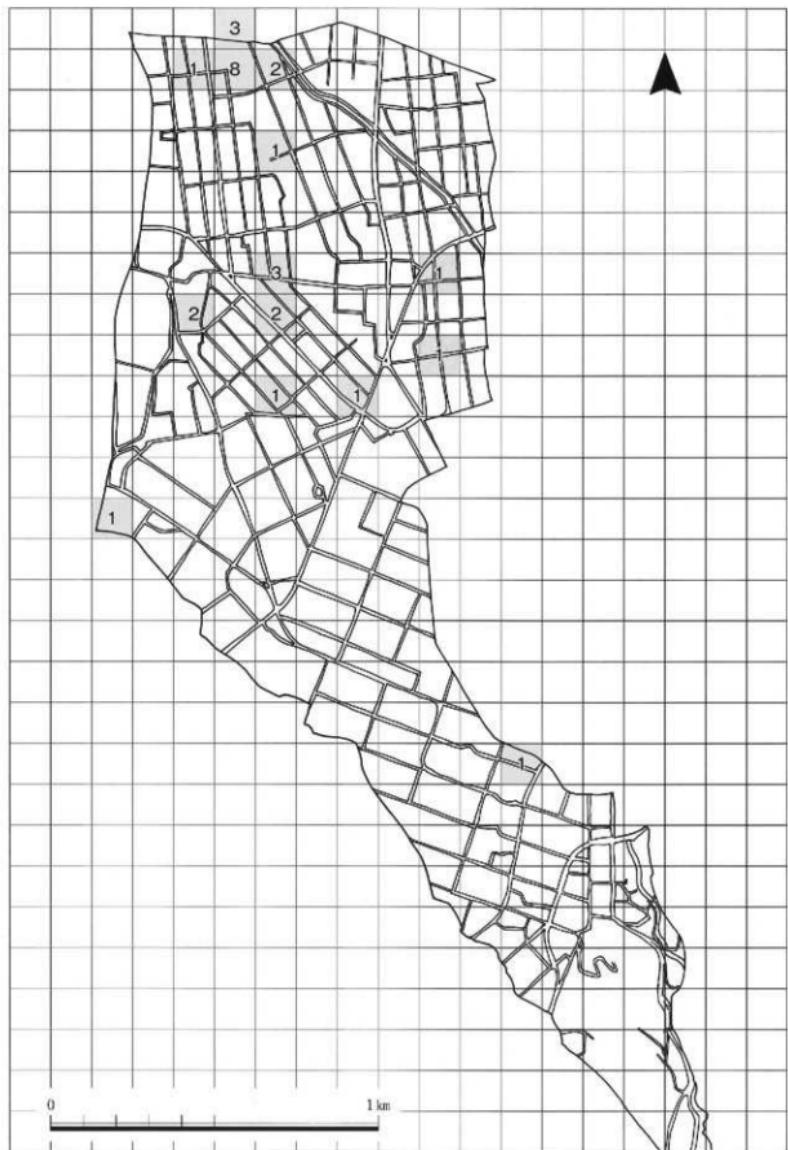


第4図 調査結果概要図 ($S = 1/10,000$)

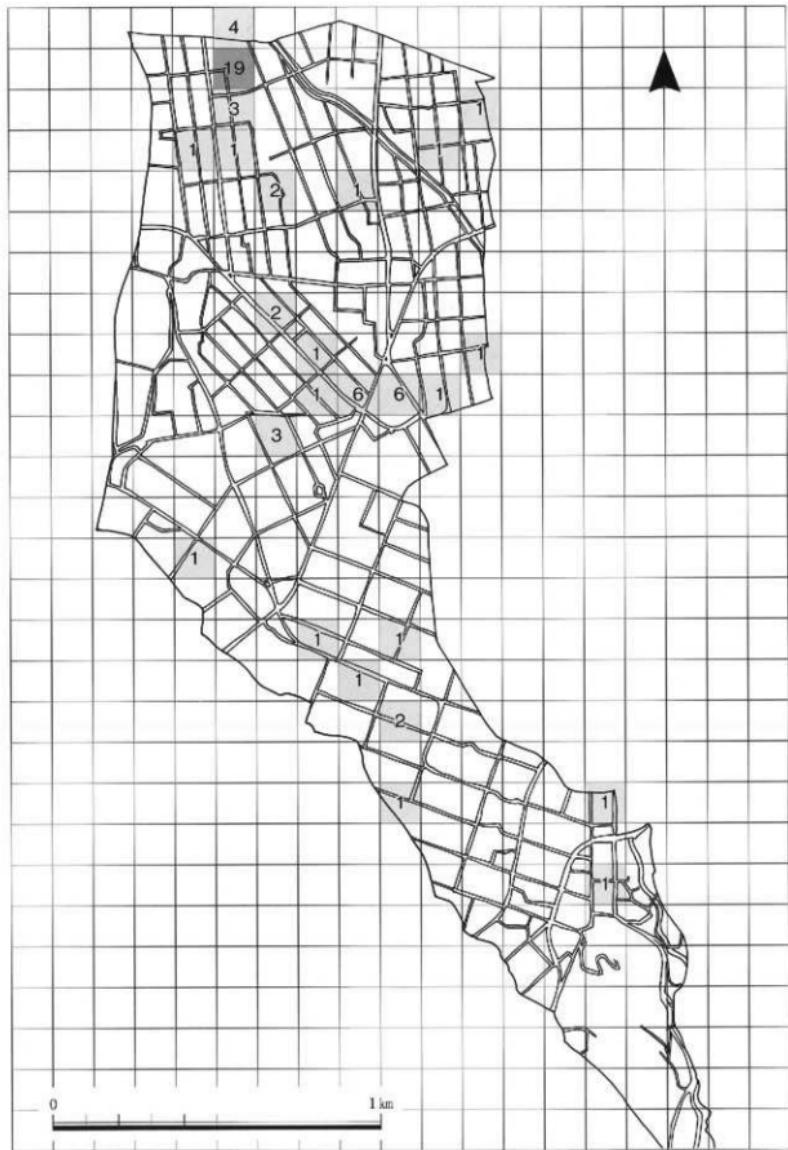
1. 宮後北遺跡
2. 池尻遺跡
3. 久保池田No.2遺跡
4. 宮後南遺跡
5. 宮後キンケン塚
6. 井口城跡
7. 井口遺跡
8. 井口南遺跡
9. 井口A遺跡
10. 川上中土居の宮遺跡
11. 川上中遺跡
12. 寺山中世墳墓群



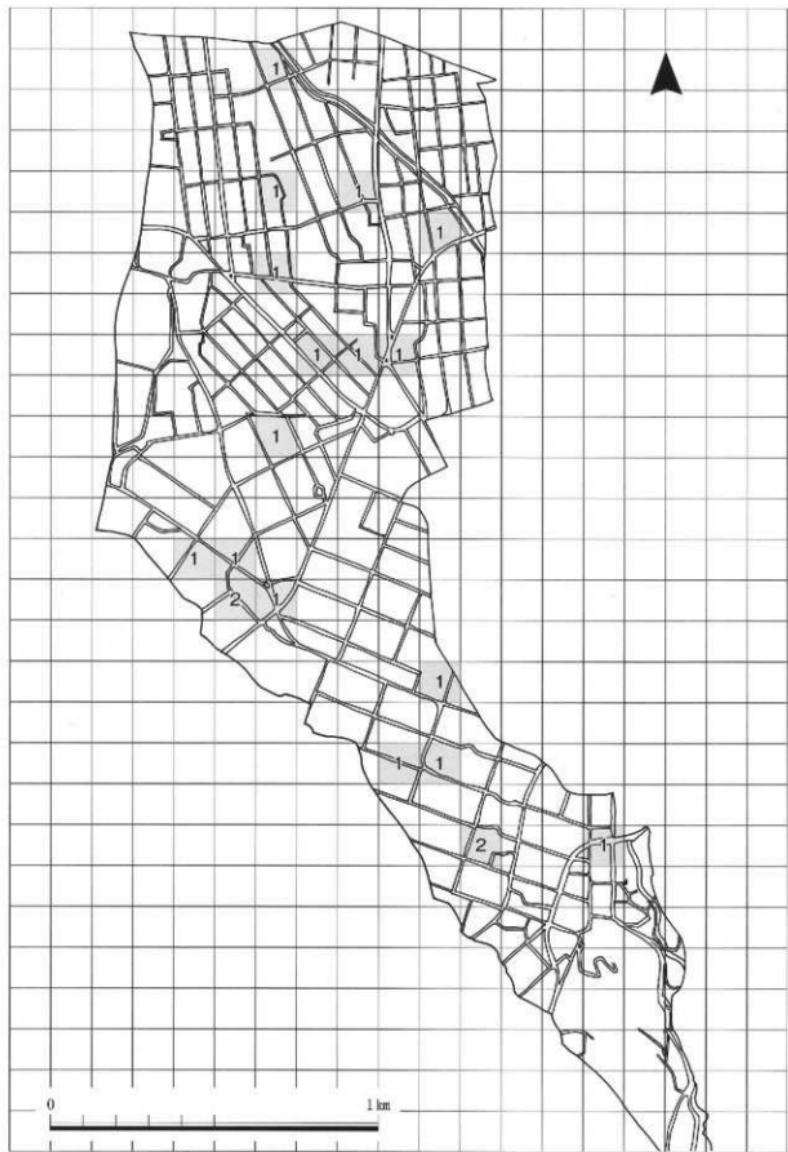
第5図 縄文・弥生～古墳の遺物散布状況 ($S = 1/15,000$)



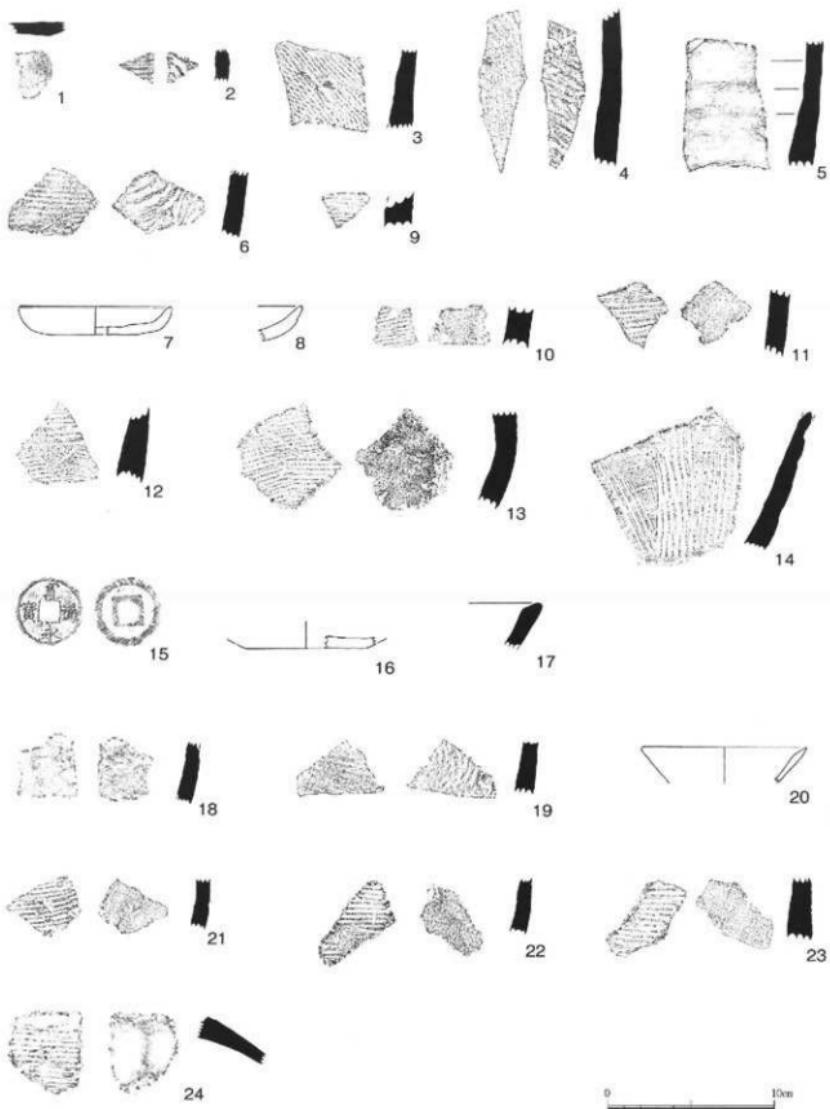
第6図 古代の遺物散布状況 ($S = 1 / 15,000$)



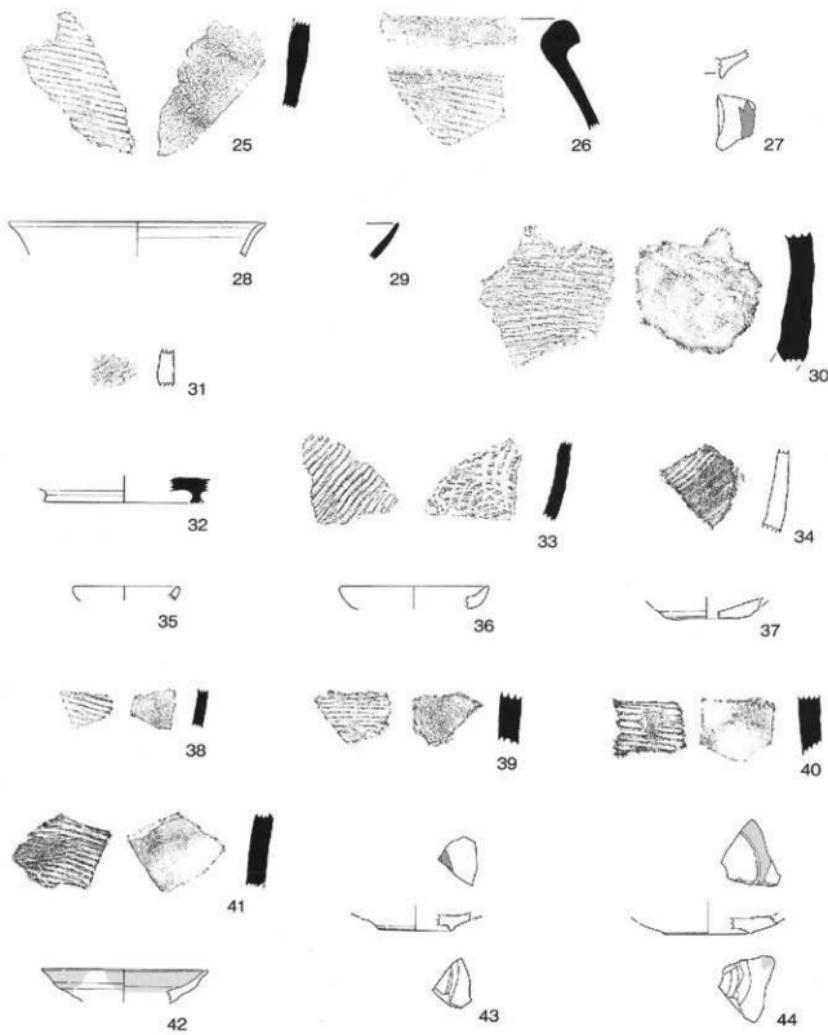
第7図 中世の遺物散布状況 ($S = 1/15,000$)



第8図 近世以降の遺物散布状況 ($S = 1 / 15,000$)



第9図 遺物実測図 (1) 1~15 宮後北遺跡 16・17 久保・池田No2遺跡
18~24 宮後南遺跡 (S=1/3、15のみ2/3)



第10図 遺物実測図 (2) 25~27 宮後南遺跡 28 宮後キンケン塚 29・30 井口城跡
31 井口遺跡 32~44 遺跡範囲外出土品 (S=1/3)



図版1 遺跡全景（1）

1. 宮後北遺跡
2. 池尻遺跡
3. 久保・池田No.2遺跡
4. 宮後南遺跡
5. 宮後キンケン塚遺跡
6. 井口城跡
7. 井口遺跡
8. 井口南遺跡



9



10



11



12



13



14



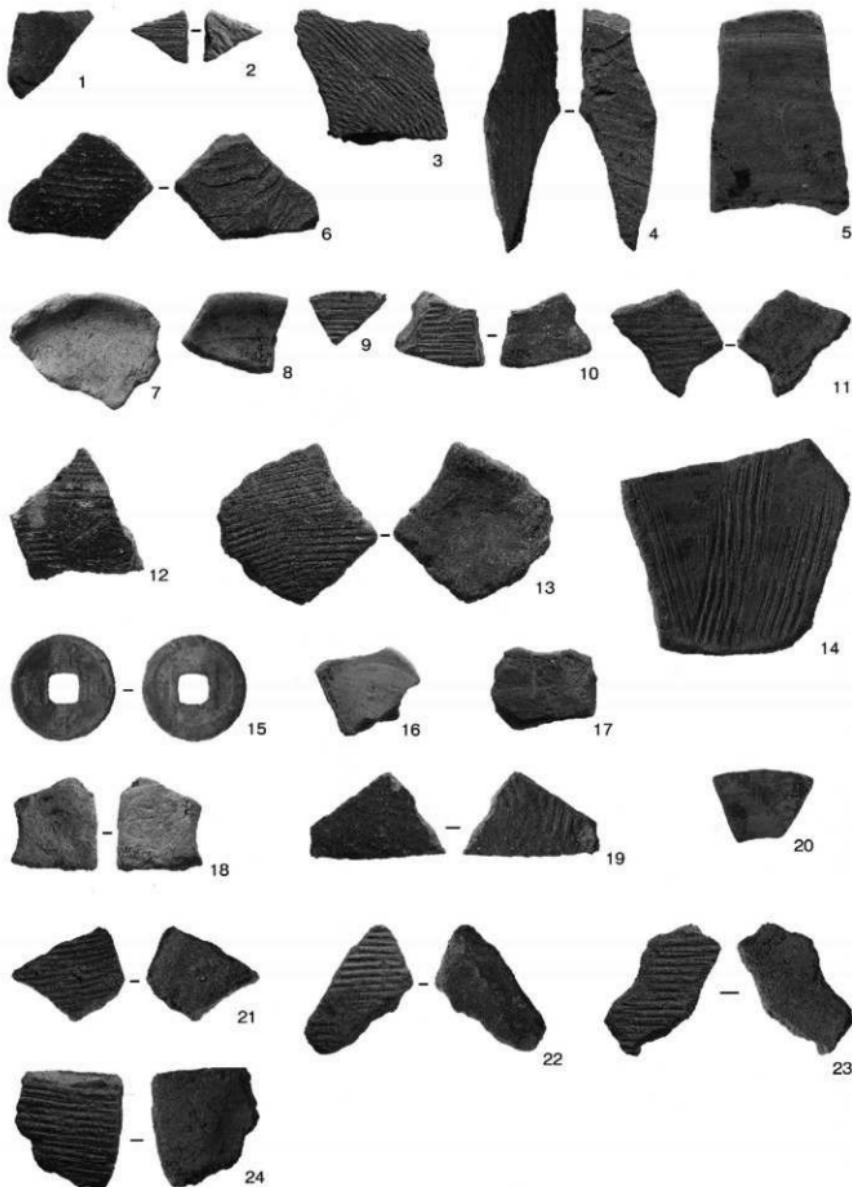
15



16

図版2 遺跡全景（2）

9. 井口A遺跡 10. 川上中土居の宮遺跡 11. 川上中遺跡 12. 寺山中世墓 13~16. 調査風景



図版3 遺物写真 (1)



図版4 遺物写真(2)

報告書抄録

ふりがな	とやまけん なんとしまいそうぶんかざいぶんぶちょうきほうこくはち いのくらいいき							
書名	富山県 南砺市埋蔵文化財分布調査報告8 一井口地域							
シリーズ名	南砺市埋蔵文化財調査報告書 33							
編著者名	次山 淳 高橋浩二 岡山充味 香野友希 小林史佳 藤井塗臣 吉田 啓 宮崎順一郎							
編集・発行機関	南砺市教育委員会							
所在地	〒932-0292 富山県南砺市井波520 TEL (0763) 23-2014	南砺市教育委員会						
発行年月日	西暦2013年3月22日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ° '	東經 ° '	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しない いせき 市内遺跡	富山県 南砺市 地内	16210	-	36° 34' 00"	136° 52' 40"	20120414 20121117	-	-
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
市内遺跡	-	繩文 古中世 近世	文代世	-	縄文土器 須恵器、土師器 中世土師器、珠洲、 青磁、越中額刀、 その他近世陶磁器	-	-	

南砺市埋蔵文化財分布調査報告8

- 井口地域 -

平成25年3月22日

発行 南砺市教育委員会

印刷牧印刷株式会社

